

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東日本航空専門学校	昭和62年10月29日	今別府 和美	〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字菱沼84番地 (電話) 0223-23-3344			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人日本コンピュータ学園	昭和61年10月22日	理事長 持丸 寛一郎	〒980-0013 仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501			
目 的	航空産業界を担う航空整備要員の専門技術者を養成することを目指し、航空業界に関する先端技術を習得させ、もって社会の発展と福祉に貢献できる人材育成をする。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課程	航空機整備科 二等航空運航整備士コース	3年(昼)	2,950単位時間 (又は単位)	平成6年6月21日 文部大臣告示 第84号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1,554 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1,396 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員(うち二等航空運航整備士コース)	生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
198(90)人	46人		12人	6人	18人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 全科目100点評価(筆記試験) 5段階評価(実技試験) 定期考査(年4回) 前期(中間考査、期末考査) 後期(中間考査、期末考査)	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月24日～8月23日 ■冬 季：12月24日～1月6日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	年間850単位時間以上の履修単位時間及び学校が定める履修すべき全科目の評点40点以上(評価2以上)	
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 学生サポート室を設置し担任以外も含め組織として学生、保護者との相談体制			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動 (有・無)	

<p>主な就職先</p>	<p>■主な就職先、業界等 JALエンジニアリング ANAラインメンテナンステクニクス IHI相馬事業所 MHIエアロエンジンサービス</p> <p>■就職率^{※1} 93.3%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 93.3%</p> <p>■その他（任意） （平成27年度卒業者に関する平成28年4月1日時点の情報）</p>	<p>主な資格・検定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2等航空運航整備士 ・実用英語技能検定 ・特殊無線技士 ・危険物取扱主任者乙種
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 2.1%</p> <p>平成27年4月1日在学者 47名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年3月31日在学者 46名（平成28年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更のため。</p> <p>■中退防止のための取組 学生相談室が主体となり、本人・保護者と相談及び直接面談を実施</p>		
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.ejair.ac.jp/</p>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体との意見交換を行うことで、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む。また、業界が新たに必要とする実務に関する知識及び技術や技能を把握・分析した上で、今後の専門課程の授業内容・方法の改善を図る。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
水車 慶二	教務部長 (委員長)
安藤 清	航空機整備教務課 課長 (副委員長)
工東 信郎	公益社団法人 日本航空技術協会 常務理事 事務局長
大村 憲克	株式会社ジャムコ 整備工場メンテナンス統括室 室長
今別府 和美	校長
小高 栄一	教務部長補佐
樋口 隆一	航空機整備科 教員
伊藤 秀吉	航空機整備科 教員
加賀谷 清一	航空機整備科 教員
須貝 亮二	航空機整備科 教員
今野 昌憲	航空機整備科 教員
高橋 浩	航空機整備科 教員
中嶋 新一郎	航空機整備科 教員
田代 秀雄	航空機整備科 教員

(開催日時)

第 1 回 平成 27 年 10 月 13 日 14:10~15:10

第 2 回 平成 28 年 2 月 12 日 14:00~15:10

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

航空業界の整備士として、専門分野の知識のみの習得に留まらず、実習を通じて知識に裏付けされた技術・技能の習得と理解度をより深める。また、航空整備士としての基本作業を身に着けさせ早期に職場の実践力として業界で活躍できる人材を育成する。

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員に対する研修の必要性を把握し、業務に必要な知識や専攻分野における指導力等を修得させ、教員の能力及び資質の向上を図る。また、必要と認める時は、他の機関や企業等と連携して又は外部の機関に委託して研修を行う。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
菊田 正信	東北管理株式会社 代表取締役
宮口 悟	日本通運株式会社 東北総代理支店 次長
大村 憲克	株式会社ジャムコ 整備工場メンテナンス統括室 室長
石川 洋之	株式会社パシフィック 航空給油事業部 施設課主任 (本校OB)

(学校関係者評価結果の公表方法) ホームページ上で公表

URL: <http://www.ejair.ac.jp/report/hyoka.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法) ホームページ上で公表

URL: <http://www.ejair.ac.jp/>

授業科目等の概要 1/3

(工業専門課程 二等航空運航整備士コース) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			一般教養	計算力の向上と基礎数学の学習や企業への入社試験で用いられる SPI を基本とした非言語問題の学習を行います。	1通 2通 3通	69 51 50		○		
○			英語	英語の基礎を確認した上にレベルアップを行い英検資格取得を目指します。	1通 2通 3通	50 10 15		○		
○			航空英語	航空機の整備は作業基準に従って作業を実施しなければならない。英語の表現を正確に理解できるとともに、作業基準の内容から整備の基本的な技術も習得する。	2通 3通	10 15		○		
○			コンピュータ 実務	社会人に必要な文書作成。データ集計について Microsoft Office を使い基本操作から演習等を含め総合的に学習します。	1通	40		○		
○			航空工学	航空機整備の全般的な作業、機材の点検作業も含め習得する。	1通 2通 3通	21 9 147		○		
○			危険物取扱	危険物に対する正しい知識で安全な取扱いができるよう、資格取得を目標に学習する。	1前	10		○		
○			タービン発 動機	タービンエンジン発動機の概要、構成システムの基本的な概要について習得する。	2通	50		○		
○			航空法規	法の概要、航空運送事業の運航規程、整備規程の内容、サーキュラーの概要及び記載事項、ヒューマン・ファクタ、関連法規と航空法との関連事項、空港管理規則等の習得する。	1通 2前 3前	30 20 10		○		
○			航空力学	流体力学、翼型理論、翼空力特性、機体の性能、高速空気力学、機体の重量及び重心位置の概要と求め方について習得する。	1通 2前	50 34		○		

(工業専門課程 二等航空運航整備士コース) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			機体構造	機体構造、動翼の種類、操縦系統、着陸系統、航空機にかかる荷重の修得及び油圧、燃料系統等の構成及び働きについて習得する。	1 通 2 前	72 60		○		
○			航空機材料	材料力学の基礎、金属材料、化学材料、複合材の種類、各々の特徴と用途及び取扱上の注意事項等習得する。	1 通 2 前	30 20		○		
○			電気装備品	電気の基礎、電源系統、電動機概要及び構造機能、電気系統の構成、電気配線の方法等の取り扱いについて習得する。	1 通 2 前	56 40		○		
○			電子装備品	電子工学、電子回路、航空電波の基礎、自動操縦、通信系統、サーボ機構、航法系統装備品等について習得する。	1 通 2 前	43 35		○		
○			航空計器	航空機で使用される各種計器の原理、構造、機能について習得する。	1 通 2 前	40 20		○		
○			ピストン発 動機	航空機に装備されているピストンエンジンの取り扱いと整備実習を通じて、機器の構造、機能、操作上の注意点を学び技術の向上と資格を目指す。	1 通 2 前	87 50		○		
○			基本技術	航空機の整備作業に必要な基本的な知識及び作業要領及び取扱上の注意事項、求められる基準について習得する。	1 通 2 前 3 前	140 50 70		○		
○			基本技術実 習	学科で習得した正しい基本作業を実践し、2等航空運航整備士の資格の要件に沿った構造修理、締結作業、機械計測、電気計測等の実習を行う。	1 通 2 前 3 前	60 80 80		△		○
○			機体実習	航空機のシステム全体の理解および機体の点検整備作業、取り扱いについて実習し、各系統つながりと部品等の交換要領を習得する。	1 前 2 通 3 通	40 180 380		△		○

授業科目等の概要 3/3

(工業専門課程 二等航空運航整備士コース) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			電気装備品 実習	電源系統の構成、機能、作動試験要領の習得と交換要領、調整要領を習得し、資格取得に結び付ける。	1 通 2 通 3 通	60 40 45		△		○
○			電子装備品 実習	航空機に装備されている電子装備の構成、機能、作動試験等を実習を通じて学ぶ、また、交換要領、取扱上の注意事項を習得する。	2 通 3 通	40 45		△		○
○			航空計器実 習	航空機に装備されている主要部品の構成、機能及び作動の試験及び交換要領を習得する。	1 通 2 通	66 40		△		○
○			ピストン発 動機実習	ピストンエンジンの取り扱いと整備実習を通じて、機器の構造、機能、操作上の注意点を学び技術の向上と資格取得に結び付ける。	2 通 3 通	150 90		△		○
合計				1年次 18 科目 2年次 20 科目 3年次 11 科目	1,000 単位時間 (単位) 1,000 単位時間 (単位) 950 単位時間 (単位)					